



三井本館解体工事現場、技術者と職人が記念撮影（大正15年、三井文庫蔵）

**Modern Japanese Architecture
Challenges in Construction Technology**

2015.10.31 sat - 12.27 sun
竹中大工道具館 1Fホール

近代建築
ものづくりの挑戦

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM

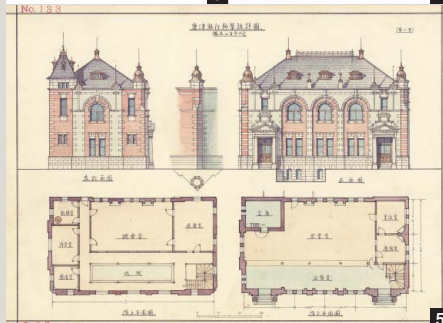
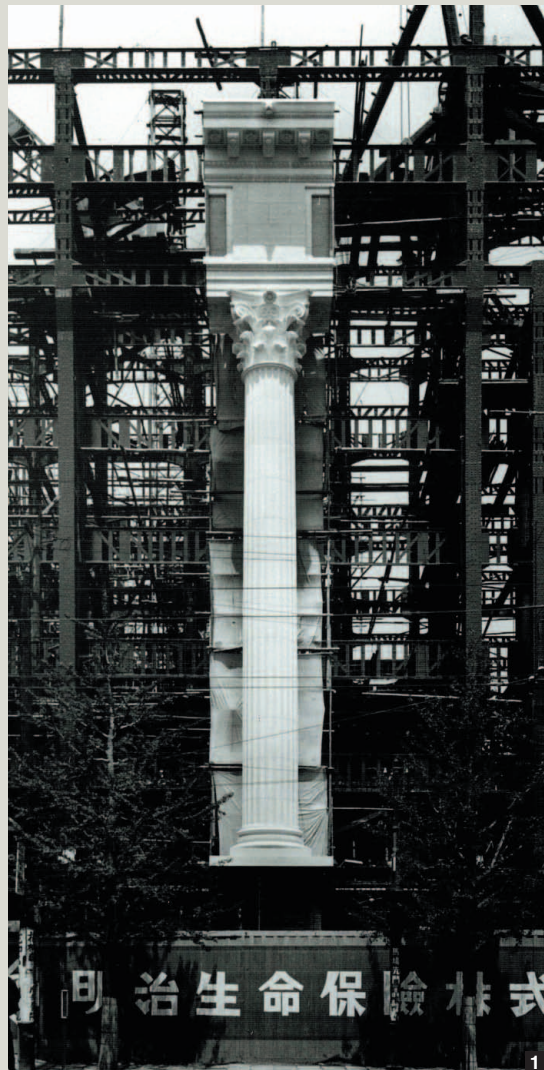


公益財団法人 竹中大工道具館

開館時間 / 9:30~16:30 (入場は16:00まで)
休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌日)
入館料 / 一般500円、大高生300円、中学生以下無料、
65歳以上の方200円 (常設展観覧料含む)



明治、大正、昭和。日本が大きく変わった時代。建築も西洋からもたらされる新しい技術でつくることが求められました。職人や技術者たちはそれに果敢に挑戦し、短期間のうちに習得して、近代化を成功させます。その過程でどのような技術革新があり、それがどのように建築を変えていったのでしょうか。本展では建設会社や大学等に残された貴重な資料を通して、その歩みを振り返ります。



①明治生命館工事現場（昭和8年頃）②枢密院配筋模型（大正10年、京都大学蔵）③第一国立銀行鋳造模型（昭和5年 清水建設蔵）④為替バンク三井組柱頭（明治7年 清水建設蔵）⑤清水組彩色図（明治38年～大正12年、清水建設蔵）

第1章 建築の文明開化

一棟梁とお雇い外国人の活躍

文明開化により新たな時代を迎えた日本。西洋建築の導入により、建築のあり方が大きく変わり始めます。進取の精神をもった棟梁たちのチャレンジの姿を、わずかに残る資料を通して、ものづくりの視点から具体的に紹介します。

第2章 歴史主義との格闘

一建築家と請負業の登場

本格的な西洋建築を日本人自身でつくろうと建築家教育が始まります。また新たな建築に合わせて新材料の生産や大規模工事を請け負う近代化建設会社が勃興し始めます。その変化を美しく彩色された図面や建築部材・各社創業史料などをもとに紹介します。

第3章 鉄とコンクリート

一技術革新が建築を変える

明治の末から建築の作り方を根底から覆す鉄の技術が日本の建築界を襲います。鉄骨造と鉄筋コンクリート造という二大技術革新を、鉄骨部材や配筋模型などの実物資料に、豊富な映像と写真を加えて紹介します。

シアターコーナー

一映像で振り返る近代建築

昭和初期に竣工した名建築、東京の明治生命館（1934）、大阪の大阪瓦斯ビルディング（1933）の工事を記録した貴重なモノクロ映像が残されています。会場内のシアターコーナーで解説付きで上映します。

〔主催〕公益財団法人竹中大道具館〔後援〕神戸新聞社〔特別協力〕清水建設、竹中工務店〔資料協力〕INAXライブミュージアム、大林組、鹿島建設、京都大学、JR東日本、大成建設、高島屋、鉄道博物館、東京大学、日本建築学会、一橋大学、法務省、舞鶴市立赤れんが博物館、三井文庫、三菱地所、三菱地所設計、明治安田生命、早稲田大学

記念イベント ※セミナー、見学会の申込方法の詳細は当館ホームページをご覧ください。

「技と心」講演会「ものづくりの近代建築史」〔講師〕内田祥哉（東京大学名誉教授）
藤森照信（東京大学名誉教授）
2015年11月8日（日）13:00～15:30
ラッセホール大会場（神戸市中央区中山手通4-10-8）〔定員〕当日先着200名（無料・申込不要）

「技と心」セミナー「建設会社設計部が気づいた世界」〔講師〕石田潤一郎（京都工芸繊維大学教授）
2015年12月5日（土）13:30～15:00
神戸芸術センター 会議室〔定員〕100名（要申込み・参加費無料）

見学会「神戸塩屋の近代建築を巡る」〔見学先〕ジェームス邸・旧後藤邸・旧グッゲンハイム邸
2015年11月28日（土）13:00～16:00〔定員〕30名（要申込み）〔参加費〕1500円

竹中大道具館

〒651-0056神戸市中央区熊内町7-5-1
〔TEL〕078-242-0216〔FAX〕078-241-4713
〔開館時間〕9:30～16:30（入館は16:00まで）

〔入館料〕一般500円、大高生300円、中学生以下無料、65歳以上の方200円※常設展観覧料を含む
〔公式サイト〕<http://www.douguan.jp/modern>



〔アクセス〕

山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
神戸市営地下鉄「新神戸駅」北出口1または北出口2より徒歩約3分
神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分